

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	重症児デイサービス とくとくとく都府楼南		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人一人に合わせた支援プログラムを行っていること	一人30分程度の入浴支援を毎日行っている。入浴の希望が無い子に関しては一人30分以上の機能訓練が行えるようにしている。その他にも、一日の生活に合わせた医療ケアの時間帯の確保や療育をとる時間も作って支援を行っている	日々のスケジュールは、前日に子ども一人一人に合わせた支援内容を準備し、どの職員がどの子を接するかどうかのスケジュールを30分間隔で作成している
2	ご家族や他機関(医療機関、学校等、行政、他事業所、相談支援)と連携を図りながら子ども達に適した接し方や社会参加ができるように情報共有を多くとっている	ご家族の了解をもらいつつ小さな事でも確認して調べようを意識している	装具作成をする際や機能訓練また医療的ケアを行う際に主治医やソーシャルワーカーとの連携を取ることが多い
3	イベントを行う際は子ども達一人一人の強みを出しながら参加できるイベントや客観的に楽しめるイベントに分けて行っている	子ども達一人一人に合わせたイベントでは、他機関からの情報共有を行い安全に行えるようにしている。また地域の方と行うイベントを年に1回以上行うようにしている	食べるイベントを行う際は、食形態の確認等の安全対策に気を付けている

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の開催や保護者会の開催を行うこと	日々の支援時間は子どもと接する時間として使用し、子ども達の成長と発達へ時間を使いと考えているため、父母の会としての時間を取るのが難しい。ご家族を呼んで行うイベント時に保護者同士が話せる空間は準備しており、後日連絡したい場合は仲介してご家族同士が連絡取れるようにしている	支援以外で取れる時間の確保を検討していく
2	大きな災害(地震等)時の対応	風水や火災、小さな地震に対する対応や地域の協力体制は行っているが、大震災が行った際に瞬時に対応できるかどうか悩ましい。避難場所の公民館は直ぐ開所されることがなく、開所するまでに何点かの連絡を行った後に避難ができるとのこと。優先順位もあると報告有。そのため瞬時に避難ができるのか、日々行っている避難訓練で対応できるのか不安	行政や公民館職員と適時連絡を行い、少しずつでも地域が整うように準備してもらっていく
3			